

フィリピン共和国
鉦山環境管理計画
運営指導調査団報告書

2001年2月

国際協力事業団

序 文

フィリピン共和国政府は国家計画「フィリピン 2000」の中核となる「フィリピン中期開発計画（1989年から10年間）」において、環境評価の取り組み、環境汚染に対する法令の整備及び基金の設立を行ってきました。しかしながら、同国における環境問題に対する技術力は不十分であり、特に鉱山事業に係る環境評価、モニタリング、公害対策等の技術力の向上は緊急の課題となっています。

1998年 JICA は、発展途上国の環境に対する課題をくみ取り、実情にあった適切な環境保全プロジェクトを実施する積極型環境保全協力（プロジェクト方式技術協力）のスキームにて同国で技術協力を実施することとし、1998年10月と1999年1月の2度にわたり環境保全技術調査員を派遣し、鉱山活動に係る環境対処能力向上のプロジェクトを同国に提案し、その詳細について同国政府関係者と協議を行い、取りまとめました。その後1999年5月に環境保全策定調査団を派遣し、同国政府とプロジェクト開始を合意する R / D (Record of Discussions) を締結し、1999年7月1日より3年間の協力期間にてプロジェクトを開始しました。

国際協力事業団は、2001年1月に協力期間の中間時点にさしかかった本プロジェクトの、これまでの活動実績、管理運営状況、カウンターパートへの技術移転状況に関し、PCM (Project Cycle Management) 手法を用いて当初計画に照らし合わせた中間評価を行い、日本・フィリピン双方で調査結果を共有するべく、2001年2月12日から2月23日まで運営指導調査団を派遣しました。そしてその結果を踏まえ今後のプロジェクト計画等について確認、見直しを行い、今後のプロジェクトの進め方について協議し、合意内容を M / M (Minutes of Meeting) として取りまとめ、署名・交換を行いました。

本報告書は、同調査団の調査結果を取りまとめたものです。ここに、本調査団の派遣に関してご協力いただいた日本とフィリピン両国の関係各位に対し、深甚の謝意を表するとともに、あわせて今後の支援をお願いする次第です。

2001年2月

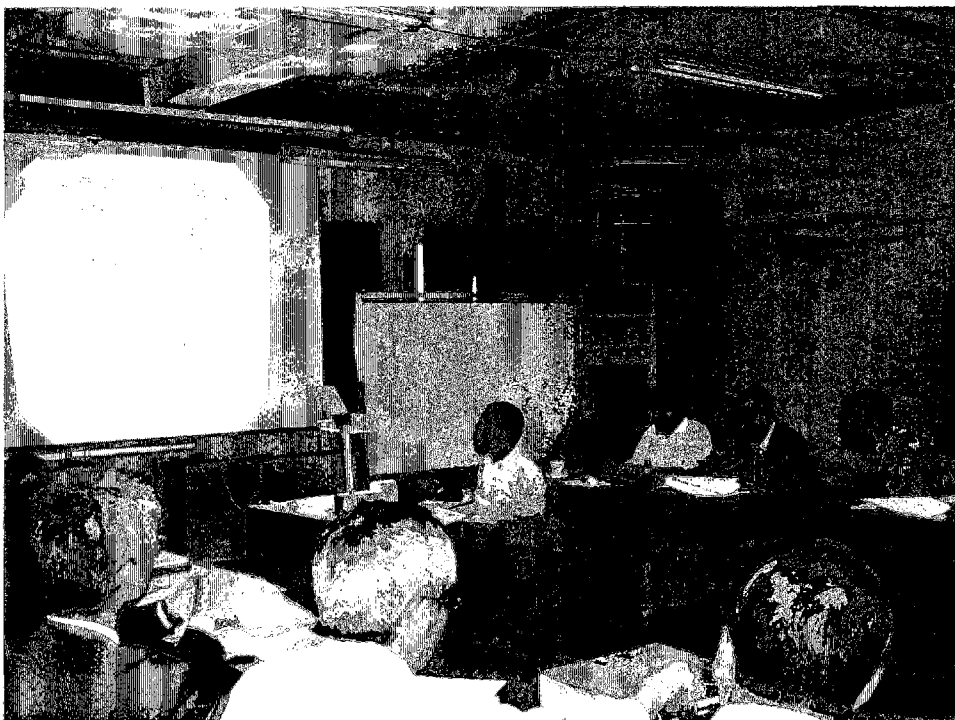
国際協力事業団

鉱工業開発協力部

部長 林 典 伸



M / M 署名・交換 (左：谷川団長、右：ラモス MGB 局長)



協議風景 (フェーズ II 要請案聴取)

目 次

序 文

写 真

第1章 調査団について	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 団員構成	1
1 - 3 調査団日程	2
1 - 4 主要面談者リスト	3
第2章 中間評価について	4
2 - 1 中間評価方法について	4
2 - 2 中間評価結果	11
添付資料1 プロジェクトの経緯	19
添付資料2 PDME 作成の考え方	23
添付資料3 Project Design Matrix (PDM ₀)	32
添付資料4 Project Design Matrix (PDM ₁)	34
2 - 3 フィリピン共和国鉱業セクターの現況について	36
添付資料5 ~ 8	38
第3章 運営指導について	39
3 - 1 運営指導内容について	39
3 - 2 フェーズ 協力要請について	40
第4章 所 見	43
4 - 1 国内委員長所見	43
4 - 2 総合所見	44
付属資料	
1 .協議議事録 (M / M)	51
2 .フェーズ 協力要請に係る資料	113
3 .プロジェクト広報資料 (JICA フィリピン事務所作成 JICA Newsletter 2000 Second Edition)	145